

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270102312		
法人名	有限会社 ブロンディ		
事業所名	グループホーム ブロンディ		
所在地	〒030-0847 青森県市東大野1丁目21-2		
自己評価作成日	令和2年12月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	令和3年3月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の意思を尊重し、やりたいこと、できること、行きたい所の把握(思いの理解)に努め、日々の生活を大切にし、楽しんでもらえるようにしている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

徒歩での移動圏内に大型ショッピングセンターがあるなど生活しやすい閑静な住宅街に事業所がある。日々の生活を楽しんでもらえるよう利用者や家族の日々の「声」に耳を傾け、行事食のメニューづくりや小旅行の実現など日々のサービス提供に反映されている。医療機関とも協力的な関係が構築されており、受診結果の連絡や重度化への対応も行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

公益社団法人青森県老人福祉協会

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいて随時指導、助言をし、スタッフの実践を促している。	スタッフルームと玄関に理念を掲示している。また、毎月実施する事例発表の場にて、地域密着型サービスの意義や理念に基づいてサービス提供が行われているか確認が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年公園の草取りや町内の夏祭りに参加しているが、今年はコロナウイルスの影響で町内の夏祭りも中止となっている。	町内会に加入しており、例年であれば夏祭りなどの町内行事には、出店準備を手伝うなど主催者側としても参画している。また、事業所で主催する納涼祭にも町内の人が参加するなど交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の女性部に「介護保険について」や、「認知症について」「介護保険施設について」説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見や助言をできる限りサービスに反映させている。	町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員が参加している。コロナ禍での面会方法などについて助言をいただき、タブレットを使った面会や窓越しの面会などの対応につなげるなどサービスに反映している。玄関前に会議結果の掲示も行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話やファックスだけでなく、直接訪問して、顔の見える関係作りに努めている。	月に一回程度市役所を訪問しており、顔の見える関係作りに努めており、相談や問い合わせにも直接声をかけて話ができる関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年4回身体拘束について研修を行い、日々のサービスの見直しをしている。また、少しでも身体拘束に触れるような事案については、家族も含めた話し合いを設け、代替策を検討している。	指針を基に、身体拘束に関する委員会を3ヶ月に1回開催されている。年間研修計画の中に身体拘束に関する項目も入っており職員の共有に努めている。また、外部の研修にも機会があれば参加している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年4回虐待について研修を行っている。日々のサービス内で発赤や内出血の有無、表情、行動等を観察し、常に虐待が潜んでいないか管理者やリーダーは注意を払っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修に取り入れ、必要時活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は理解していただけるよう言葉を加えるとともに、不安や疑問もすぐに尋ねられるようコミュニケーションを十分取っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見や要望は面会時に話せるような機会を設け、反映するようにしている。	玄関に設置している意見箱や、面会時に意見や要望を聞く機会等を設けている。その際、家族から一緒に旅行に行きたいと言う要望があり、職員が付き添う形で実現するなど、できるだけ反映できるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや勤務交代時に職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者が、日々の業務の中で話をよく聞くよう意識しており職員が意見を出しやすい雰囲気づくりに努めている。その他に、年2回個別面談の場も設定しており、物品の購入からサービスの提供内容、トイレの増設等の環境面まで職員の意見が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の努力や実績は、給与、賞与等に反映させている。資格が取りやすいように勤務変更をしたり、向上心が持てるように環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内の提示、社内研修の充実等で学習の機会を設け、資格取得機会を提案している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設外研修を通して、同業者と交流する機会を設けている。その時に得た情報や知識はサービスの向上に一役買っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談を管理者だけでなくスタッフも同行し、できるだけ不安や困っている事、要望等を複数で受容するようにしている。(コロナのため、今年度は必ずしも行えているわけではない)		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始の前の申し込みの時点から家族の困っていること、不安なこと、要望等を受容し、介護相談ができるよう関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族等が必要としているサービスを見極め当サービスだけでなく、他のサービスも提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援の視点を重視して、される介護ではなく、自分でしたい生活ができるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族のきずなを大切にし、家族の役割を継続できるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場との関係が入所によって途切れないように、入所後も継続している。例えば、理美容院や病院、サークル等である。(コロナのため、今年度はサークルへの参加は無し)	馴染みの人や場との関係継続の為、時には家族の協力も得ながら、友人との面会の場を設けたり、入居前から所属しているサークルとの窓口的役割等の支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別性を重視し、馴染みの関係作りができるよう、お互いに認め合えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても家族の困っている事、不安なこと、要望等を受容し、介護相談ができるよう関係作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひとりひとりの思いは日々のコミュニケーションを通して、把握できるよう努めている。また、家族の意向は、毎月の面会時に把握できるようにしている。	意思表示が難しい方の場合、家族が面会で訪れたときに聞き取りを行い情報を得ている。また、日常の生活の中で話された家族への思いや言葉を代弁して家族にも伝える等の支援も行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族からの細かい情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中での観察を行うとともに、家族、医療従事者から情報を得られるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを実施し、本人、家族、主治医、看護師と話し合い、介護計画を作成している。	日常の支援の中職員が、常に介護計画を確認できる場所に保管されている。モニタリングは毎月行い報告書を作成している。作成した報告書は毎月家族に提出しており、状態の変化や要望があった時は都度プランの変更を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間での情報の共有がしやすいよう、項目ごとに記録したり、気づきを活かせるよう、経時的記録だけでなく、テーマごとに記録するよう工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに沿うよう柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう、社会資源を活用している。(町内会、公園等)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係は途切れないよう受診介助している。また、受診の結果は速やかに報告し、家族の希望も大切にしている。	事業所が対応して受診を行なっている。受診内容については毎回電話にて家族へ報告が行われている。その他、毎月受診の結果を郵送で家族へ情報提供している。薬が変わった時や検査の結果内容については医師から直接家族へ説明してもらうなど、医療機関との関係も築かれている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師と主治医にいつでも相談できる体制をとり、適切な医療をすぐにうけられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時だけでなく通院介助を通して、顔の見える関係作りに努め、些細なことでも相談できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	スタッフに看取りケア研修を行い、医療連携体制整え、積極的に取り組んでいる。ACPを通して、本人、家族の思いに寄り添うケアに努めている。	重度化した場合における対応について指針が策定されている。入居時に重度化した時の意向確認が行われているが、状態に変化があった際は、その都度意向を確認し、医師とも連携を取りながら方針を決めている。家族と利用者へ終活に関するアンケートを実施するなど意向の確認にも工夫がされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回、急変時や、事故発生時の対応について訓練や講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各災害を想定した訓練を年4回行っている。地域へも依頼しているが、コロナの為実践できていない。	災害に対するマニュアルが作成されており、地震と火災の想定で年4回災害訓練を行なっている。水や食料などの非常食を三日分程度、2次災害に備え大型のガスコンロなども保有している。地域の防災組織にも所属しており、協力関係ができています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりの人格の尊重とプライバシーが守られるよう努めている。特に排泄時や入浴時は注意している。	オムツを持ち歩くときはカバーをかけたり、人目につかない時間帯にオムツを部屋に運ぶなど配慮されたサービス提供が行われている。トイレ誘導の際も直接的な声がけをしない様にするなど、職員間で共有された支援が提供されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いが表出できるよう、コミュニケーションを考えて支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	当施設の理念でもあるので、特に力を入れて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望する理美容院に行けるように支援したり、個々にあったおしゃれができるように購入したり、家族の協力をお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しくなるように選択食を1回取り入れたり、要望を聞きながらメニューを作成しています。また、準備や後片付けも役割として支援している。	週1回選択食の提供や行事食のメニューと一緒に考えるなど利用者に楽しんで食事をして頂く工夫がされている。その他にも利用者と一緒に調理の下準備を行ったり、その人のレシピを再現した食事を作るなどの支援も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた食事量や食べやすい大きさを工夫して、栄養バランスが保持できるようにしています。水分量は1日を通して確保できるように表を活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人に合わせて口腔ケアを実施している。入れ歯は夜間に洗浄を徹底している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人の自立度に合わせて、できるだけおむつから離脱できるようにしている。排泄パターンを活かし、トイレ誘導を行っている。	水分摂取と排泄を確認できるチェック表を用いて、排泄パターンを把握する様にしている。また、下剤の反応時間も分析されており利用者に負担のないトイレ誘導に反映している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、食物繊維の取れない方は青汁や野菜ジュース等を摂取してもらったり、砂糖の代わりにオリゴ糖を使ったりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	毎日入浴日を設け、個人の希望に添うようにしている。	個浴で対応している。平均すると1人週2～3回入浴している。皮膚状態によっては頻度を変えて対応している。また、夕方の入浴や、個人で購入した入浴剤を使用するなど、希望に添うように行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の希望する室温や明暗を調整し、安心して気持ちよく眠られるよう支援している。また、不眠の場合、ホットミルクの提供や足浴等も実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用等は薬局からの情報を常に確認できるようにしており、症状の変化を観察している。薬の変更時は本人、家族に説明して、安心して服用してもらえるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各個人の役割や楽しみごとを把握して、実現できるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に合わせて、外出できるよう支援したり、家族の協力の下でかけられるよう支援していたが、コロナウイルスの影響で出来ていない。	個別の要望に合わせて随時外出(買い物や散歩など)の支援を行っているが、企画として利用者の声を反映しながら花見や秋の行楽などに出かけている。また、受診で外に出た時は買い物などに寄るようしており、利用者の楽しみになっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人のお金の管理能力に合わせた対応をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人で携帯電話を持っていたり、施設内の電話を希望時にすぐ使用できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱を招かないように整理整頓している。音、光、温度に配慮している。季節感が感じられる花や飾り付けをしている。	季節が感じられる飾り付けを工夫して掲示している。空調で温度管理もできており、日当たりも調整している。みんなが和めるように音楽をかけるなどの工夫も行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間の中でも自由に場所を変えられるようにソファを数台置き、思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が居心地よく過ごせるように、家族とも相談しながら、本人が決定できるよう支援している。	備え付けのものはベッドとクローゼットがある。なるべく本人の馴染みのものを持ち込んでもらうようにしており、仏壇や家族の写真を持参し自分なりに過ごしやすいスペースを作っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に室内を移動できるように手すりを設置したり、階段の段差を低めにして階段を使えるようにしている。また、ドアも開閉できるよう調整している。		